

## 第14回 大和キンダーカップ 大会特別ルール

【日本協会タグラグビー競技規則より変更条を抜粋 → 赤字が変更事項】

### 第5条 オーバーステップ

タグをとられたプレーヤーがすぐに止まることができずに3歩を超えて動いてしまった場合は「オーバーステップ」の反則となり、その場所から相手チームのフリーパスでゲームを再開する。

→ タグをとられた後に止まろうとしているならば、オーバーステップの反則はとらない。  
その際に、タグをとられてから進んだ距離がおよそ3メートル以上になってしまった場合は、タグを取られた場所まで戻って攻めている側のフリーパスでゲームを再開し、それまでとったタグの回数は継続される。

### 第6条 得点の方法（トライ）

相手のインゴールの中に走り込んでボールを置けば「トライ」で1点となる。

トライの後は、得点をしていないチームのコート中央からのフリーパスでゲームを再開する。

ゴール直前でタグをとられたがそのままインゴールに入ってトライした場合は、トライは認められず、ゴールラインから5mの場所まで戻ってフリーパスでやり直すこととする。

つまり、腰に2本のタグをつけたプレーヤーだけがトライできる。

それまでにとったタグの回数は継続とし、ゴール直前でとったタグが規定の回数であったならばそこで攻守交代となる。

→ 足がゴールラインを越えていなくても、立っている状態ならば、インゴール（ゴールライン上も含む）にボールを置けば「トライ」で1点とする。

### 第7条 オフサイド

守る側のプレーヤーが故意にボールより前（オフサイドラインより前）の位置に立って攻める側のタグ後のパスをじゃましたり、横取りしたり、パスを受けるプレーヤーの近くまであらかじめ先回りしてタグをとろうとするなどのプレーは「オフサイド」の反則となる。オフサイドが起こった場合は、その場所から攻めていた側のフリーパスでゲームが再開される。タグの回数はリセットされてゼロとなる。

タグが起こったら、守る側のプレーヤーはボールより自分たち側のサイドに戻るよう努めなければならない。

→ タグをとられたプレーヤーが行う最初のパスのじゃま・横取りをせず、最初のパスを受けたプレーヤーのタグをとらなければ、守る側のプレーヤーはオフサイドの位置にいても反則としない。